

祖父・忍頂寺務と忍頂寺家資料

忍頂寺 晃嗣

(尾崎千佳筆記)

日時 平成二十一年九月六日(日) 十三時三十分～十五時
場所 国文学研究資料館二階 第二会議室(A210)
参加者 飯倉洋一・福田安典・近衛典子・青田寿美・鷺原知良
川端咲子・内田宗一・尾崎千佳

祖父忍頂寺務氏の思い出

晃嗣(あきつぐ)氏より二歳年長の兄・惠嗣(よしつぐ)氏、一歳年下の弟・介嗣(ゆきつぐ)氏といっしょに、務氏に連れられて散歩に出かけた思い出がある。散歩の途中で広場に行き会い、務氏が行司役をつとめる恰好で、兄弟相撲に興じたこともあった。惠嗣氏は昭和十五年十二月生、晃嗣氏は昭和十七年四月生、介嗣氏は昭和十八年十二月の生まれである。その後、晃嗣氏らのご父君(小野弘氏)がジャワの戦役から帰還されたあと、昭和二十二年と二十四年に一人ずつ妹が生まれたが、務氏は五人目の孫が生まれて一年あまりで亡くなっている。務氏の五人の孫は、平成二十一年九月現在、全員健在である。

母小野麗子氏の思い出

晃嗣氏のご母堂・小野麗子氏は、薬剤師であり、ときに家計を支えることもあった。務氏に対して深い敬慕の情を持っていた。務氏が亡くなれたあと、麗子氏は、務氏の親友で神戸在住の浜家(はまや)熊雄氏に、何かと相談に乗って戴いていたようである。浜家氏は、麗子氏が小野家に嫁ぐに際して媒酌人をつとめてもあり、家族ぐるみで親しくしていた方であった。昭和十四年十一月十二日、東京で行われた小野麗子氏結婚式の写真にも写っている。

務氏の旧蔵書の大半は、務氏の没後、神戸大学の島田勇雄先生のお宅に預かって戴いていた。その後、忍頂寺文庫もしくは忍頂寺務旧蔵書として大阪大学や天理大学に収蔵されるに至るのであるが、両大学に収蔵されなかった一部の資料については、島田先生が亡くなられたあと、小野麗子氏を引き取るようになったようである(現在の小野文庫がこれである)。

忍頂寺家の一族と人々

明治の始め頃、忍頂寺雅楽郎(うたろう)氏の妹であるマス氏は、本家十代の仁三郎廣知の次男駒次郎氏(分家常磐家六代を再興)の養子となり、

婿・國郎氏を迎えて忍頂寺姓を継ぎ、務氏・晃嗣氏に繋がる分家筋が成立した。國郎氏が分家筋の常磐家七代になり、務氏が八代となる。忍頂寺本家は現在、東京の大田区田園調布にお住まいのようである。國郎氏とマス氏の間には、務氏とその妹・きくゑ氏が生まれたが、國郎氏没後、マス氏は達吉（たつきち）氏と再婚して誠一氏が生まれた。つまり、忍頂寺誠一（せいいち）氏は、務氏の異父弟にあたるのである。なお、務氏の妹・きくゑ氏は、その後畠田理三郎（はたけだりざぶろう）氏に嫁いだ。務氏は、戦後まもなくのころ、畠田家に疎開していたこともある。

務氏の妻・琴代（ことよ）氏は、滋賀の多田（ただ）家の出で、二人の間に生まれたのは麗子氏ひとりだけであった。麗子氏は長じて小野弘（おのひろし）氏と結婚する。弘氏は、もと阿部家に生まれたが、小野家に養子に入った人であり、いっぽう、麗子氏も忍頂寺分家のひとり娘であった。そこで、二人の長男である恵嗣氏が小野家を継ぎ、次男である晃嗣氏は、二歳のとき、戸籍上、務氏の養子に入って忍頂寺姓を継いだのであった。誠一氏の一家は現在横浜にある。晃嗣氏が「にんじょうじ」を称しているのに対し、誠一氏の方は「にんちょうじ」を称している。

資料の所在と管理

淡路の引換寺に保管されていた忍頂寺家本家の系図は、現在は本家のもとにあると想像される。晃嗣氏のもとにも、分家分の系図一部がある。また、晃嗣氏宅には、「静村文庫」等の務氏蔵書印四顆、五顆ほど保管されている模様である。忍頂寺梅谷の書画も、あるいは一点くらいあるかも知れない。梅谷資料はおそらくは本家の方にも伝わっているだろう。

小野麗子氏ご存命中にいったんお返しした書簡類は、現在、晃嗣氏が保管している。また、大阪大学の所蔵に帰した小野文庫のなかで、個人情報

にかかわる資料も一部に含まれるが、それらについては、冊子等一般資料とは別置のうえ、閲覧禁止のかたちで、大阪大学において厳正に保管することとした。

自筆雑記帳など

晃嗣氏のもとには、務氏の自筆にかかる雑記帳が四冊ある。うち一冊には自選年譜や蔵書目録等を含み、忍頂寺文庫・小野文庫の研究にとつてきわめて貴重であるため、当日ご持参戴いた写真や一枚刷などの資料とあわせて、国文学研究資料館でいったんお預かりし、撮影・薫蒸のうえお返しすることとした。

【忍頂寺家系図】



